

## 26PE-am003

麻黄の耐塩性の評価

○大富 規弘<sup>1</sup>, 毛利 千香<sup>1</sup>, 御影 雅幸<sup>1</sup>(<sup>1</sup>金沢大院薬)

【目的】現在日本で使用されている漢方生薬「麻黄」はほとんどが中国から輸入されている。一方、1999年以来中国政府が麻黄の輸出を禁止したため、今後入手が困難になる可能性がある。このような背景から、日本でも麻黄の栽培技術の確立が必要であると考えられる。発表者らはこれまでに麻黄栽培における解決すべき問題点として雑草管理があることを報告した。原植物のマオウ属植物にはある程度の耐塩性があることが知られている。多くの植物は塩分により生長が抑制されるので、麻黄を塩性地で栽培すれば雑草による障害を受けずに良好な生長が期待できる。さらに、塩分によるストレスのために有効成分であるアルカロイド含量が増加する可能性もある。そこで本研究ではマオウ属植物とその生長を妨げる雑草の耐塩性を評価し、土壌中塩分濃度と麻黄のアルカロイド含量の関係を調査した。

【方法】実験植物として *Ephedra sinica* 及び雑草（ヨモギ、チガヤ、シロザ、ヤブマメ）を用いた。川砂を充填したワグネルポット（1/2000 a）に植え付け、ビニールハウス内で管理して降水の影響を遮断した。塩分の負荷程度は各段階に希釈した人工海水を定期的に与えることで調節した。約5ヵ月間塩分の負荷を行い、その間に各検体の生長を草質茎の総長や葉の枚数等により評価した。

【結果及び考察】今回の研究に用いた5種類の植物を耐塩性の高い順に並べたところ、シロザ>チガヤ≒マオウ属植物>ヨモギ>ヤブマメであり、麻黄と同等あるいはそれ以上の耐塩性をもつ植物が存在することが明らかになり、今後はこれらの植物への対処を検討する必要がある。塩分ストレスとアルカロイド含量との相関は現在検討中である。